

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172800290		
法人名	特定非営利活動法人 すずらの木		
事業所名	NPOグループホーム すずらの木(1階)		
所在地	岐阜県下呂市萩原町羽根437-1		
自己評価作成日	平成28年9月23日	評価結果市町村受理日	平成28年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JirvosyoCd=2172800290-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	平成28年10月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月の勉強会(ICF、パーソンセンタードケアなど)を継続して行い、ICFの視点とグループホームの理念である「尊厳を守ること」を重点に置いたケアプランを作成し、それに基づいたケアができるよう職員全員で取り組んでいます。職員は常に考えながら行動し、利用者様の思いに寄り添いながら認知症ケアの専門性を高めて支援していけるよう努めています。まだまだ十分ではありませんが、職員一人ひとりが責任感や意識を高め、理念に近づけるよう日々努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

訪問時、玄関に入ると大きな歌声、手拍子、笑い声が聞こえてきた。また1階の居間では、利用者の皆さんが、職員の音頭により、懐かしの歌謡曲を奏しげに歌っている様子が見られた。利用者の方々の穏やかな笑顔が印象的であり、日頃から利用者の気持ちを大切にされた支援が行われていることが想像できる。昼カンファレンス、夜カンファレンス等会議を頻繁に開き、情報の共有を図るとともに、利用者の尊厳を守るという理念に則り、介護計画の見直しを行っている。昨年、一昨年の調査時に迎えていただいた職員が何名もみえた。職員の定着率が良いので、利用者やその家族に安心感を与えている。職員の利用者に対する声かけ、目配り、動き等ケアの様子やさらに介護計画の記録、日常の介護記録等から、職員の介護の質やモチベーションの高さを感じられる。定期的に来訪される家族も多く、職員も毎月家族に手紙を出すなど、家族との連携も大切にしている。また、地域の方から野菜等が届くなど、地域との交流もできている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員に見える場所に掲示してある。毎月行われている勉強会を通じ、職員皆で意見を出し合い、理念を共有し実践へとつなげている。	月に何回か行われるカンファレンスでは常に「できなくなったではなく、なぜできなくなった、何ができるか」という視点で議論が行われ、理念であるその人らしく生きていける環境を創り出す努力がされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや行事(運動会、ひな祭り)に参加したり、施設でもイベントを行い参加していただいている。地域とのつながりを大切に積極的に交流している。	地域の行事、ガンドウチでは子供たちが事業所を、事業所の利用者が家庭を訪問したりしている。施設のイベント、夕涼み会には多くの地域の方の参加があり、地域の太鼓クラブの出演もある等、事業者と地域のつながりができている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々にホームの行事に参加していただいて、認知症への理解につなげようと努めているが、まだまだ地域貢献をしていかなければと思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は行えていないので、定期的開催したい。	市、地域、家族が同じテーブルについて話し合うことは難しいが、それぞれの代表とは頻りに話し合う機会があり、事業所の状況を伝えたり、助言をもらったりしている。	それぞれの代表が一堂に会し、報告や話し合いを持つことはそれなりの意味を持つのではと考える。今後とも会議の開催に向けた取り組みに期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当の方とは必要に応じて連絡をとり、協力関係を築けるよう努めている。	地域包括支援センター主催の行事に参加している。また、事業所の運営に関して市の担当者に相談する等、日ごろから市と連絡を取り合う等協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会で身体拘束について学んでいる。小さな事でも拘束になっていないか、職員皆で意見を出し合い、意識を持ってケアするよう努めている。施錠は夜間は行っているが、日中は誰でも自由に入出入りできるよう施錠していない。	指定基準における禁止対象の身体拘束以外にも身体拘束につながるような行為はないか、また転倒等のリスクを抱える方に対し、身体拘束をしないために、どうすれば良いか等を常に意識して利用者に向き合っている。結果、重度の利用者がいるにもかかわらず、ひとりも身体拘束をしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全体で入浴時、トイレ介助時などに身体に異常がないか注意深く観察している。何かあれば直ちに報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者様が見えるため、ある程度の理解はあるが、より知識を高めるために皆で勉強できる機会を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分な説明を心がけ、理解が得られるよう努めている。改定があった際も丁寧な説明を心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やイベント時など、御家族様が意見や要望を出せる雰囲気作りを心がけている。利用者様からの要望も受け入れている。苦情受付のポスターも掲示している。	積極的に来訪される家族が多く、その際は必ず職員から声かけして、意見や要望を聞いている。またそれだけでなく、定期的に手紙で利用者の様子を伝えている。家族が要望や意見を言いやすい雰囲気ができている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会の時や、個人面談を行い、意見交流の場を設けている。日常的に意見交換を行い、よい意見は積極的に取り入れている。	管理者は日常的に介護現場にいて、職員の意見を聞きとっている。管理者と職員との関係が緊密で、厳しい意見も言い合える。また意見は運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員一人ひとりの状態の把握に努めている。研修への参加を促し、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の勉強会を開催し、勉強する機会を作っている。研修の情報を積極的に提供し、日程の確保なども行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県立病院の出張褥瘡講座をすずらんの木にて行っていただき、大変勉強になった。こういった交流を増やしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所される前にご自宅やご利用の施設に訪問させていただき、ご本人の話をきく機会を大切にしている。事前にお会いすることで、ご本人に少しでも安心感を持っていただき、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査の際、ご家族様ともお会いし、ご要望等なるべく詳しく聞かせていただいている。誠意を持って接し、利用を重ねながら家族との距離を縮めていけるよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族様に今必要な支援を見極め、ホームでできることと照らし合わせながらの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のできないことに注目するのではなく、できることに目を向け、どんどん行っている。共に暮らす者同士としての関係を築いていけるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度の手紙での近況報告や、面会にみえた際、ホームでの状況をお伝えし、理解をしていただけるよう努めている。ご家族様との外出、会食、帰宅など自由に行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの喫茶店や床屋へ出かけたり、面会に来られた方とゆっくり話ができるように支援している。今まで行ってきたことに対し気持ちが途切れてしまわないよう努めている。	家族だけでなく友人・知人の訪問もある。外出においては馴染みの美容院や喫茶店だけでなく、近くで開かれる朝市等へも同行する等し、顔見知りの方々との交流を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を把握し、一緒に活動を行うなど関わりを持てるような場面作りをしている。リビングでの席順にも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所へ移られても、必要に応じて相談等受け付けている。屋外でお目にかかった際には、近況をお伺いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中でご本人の話を傾聴し、意向の把握に努めている。言葉の出ない方の意向は表情、状態、言動などから本人本位に職員で検討している。	できる限り利用者の話の耳を傾け、声かけの機会を多く持ち、利用者の表情、しぐさ、行動をきめ細かく観察する等して、利用者の意向把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、ケアマネなどから情報提供をしていただき、把握に努めている。日々の生活では職員同士の意見交換もしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様のできること、望んでいることなどを日々の生活の中で把握に努めている。個別の介護経過記録や夜間、日中の申し送りを徹底し共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントし、ご本人、御家族様の希望も踏まえプランを作成し、カンファレンスにて職員間で意見交換もしている。3か月に一度ケアプランを見直しているが、状態に変化があった時は、その都度変更を行っている。	ケアの担当制を取り入れているが、計画作成にあたっては、利用者、家族の意向を踏まえて担当以外の職員も交えたカンファレンスを行い、職員チームとして検討し、作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	関わったそれぞれの職員が個別記録に記入し、情報を共有している。また、担当者がケアプランの見直しにそれを活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な外出や病院受診の付添・送迎など、その時々状況に合わせ、柔軟に出来る限りの支援を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お茶や落語、歌など、ボランティアの方が定期的に訪問して下さっている。馴染みの店やイベントごとを把握し、外出支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	歯科、鍼灸の往診もしていただいている。かかりつけ医には継続的に診ていただき、状況に応じて適切な医療を受けられている。	眼科等協力医療機関にない他科の受診には家族の同行協力を依頼しているが、家族を通して事業所での状況を詳しく伝えている。必要がある場合には職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医院の看護師の方との情報交換は常に行い、アドバイス等いただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーなどで利用者様の状態をお伝えし、入院による本人へのダメージの軽減に努めている。退院時も情報をいただいている。入院時も時々様子を伺いに出向いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階からご家族の希望、ホームでできることを話し合い、家族、主治医、ホームで書面を交わし同意を得ている。最期を迎えるまでの間、チーム全員で支援している。	事業所で何回か看取りの経験をしている。看取りのための研修を行い、チーム全員で支援しているが、ターミナル期には管理者と医師が立ち合い、職員の精神的負担を軽減しながら支援を行っている。	事業所での看取りの希望は今後増えると推測される。より多くの職員のターミナル期におけるさらなる支援スキルの向上に向けた取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDや心肺蘇生の訓練を受けている。すべての職員が対応できるよう勉強していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回利用者様と共に消防署指導のもと、避難訓練を行っている。災害に備え、発電機、非常食、水などの準備はしている。地域との協力体制を強化していきたい。	今年も夜間を想定した避難訓練を計画している。また非常時の際に、外部からの援助者に利用者の身体状況がわかる表示法について検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声のトーンや表情などに留意し、一人ひとりに配慮した声掛けを行っている。スタッフ間でも注意し合いながらケアに当たっている。	トイレ誘導の際には耳元で本人だけがわかる声かけを実践しており、。便器に座っていたときも必ずタオルをかける等利用者の尊厳やプライドに配慮したケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中でお気持ちを引き出せるよう努めている。表出が困難な方には、2択の選択をさせていただく等働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ希望に沿って過ごしていただけるよう努めているが、入浴日など職員の都合が優先される場面もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の状態に応じて、訪問理容を利用している。起床時の整容には気を配り、1日のスタートとして手助けさせていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台所作業に参加していただけるよう声掛けを行っている。皆と一緒にすることで会話も弾む。食事の際にも職員も一緒に食事を摂り、楽しく食事をしている。	食事の盛り付けに複数の利用者がビニールの手袋やマスクを着用し、参加している。また厨房から食堂まで調理されたものを運ぶ係や味見係の役割を担っている人もいる。食事準備から食事中、後片づけまで賑やかで笑顔が絶えない様子がうかがえた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎日チェックしている。水分量を確保できるよう工夫し、こまめに提供している。月に一度体重測定も行っている。各自の健康状態に合わせ、減塩など調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシを持って磨ける方は磨いていただき、仕上げに職員が磨き残し等確認している。利用者様それぞれの状態に合わせて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立の人を除いて排泄表を付け、一人ひとりの排泄パターンを分析し、トイレで気持ちよく排泄していただけるよう支援している。昼夜で布パンツ、紙パンツを使い分けている。	排せつのパターンを細かく把握することにより、失禁の回数を減らし、自立に向けた支援を行っている。職員は臭いに対し敏感で、利用者とするちがったときに失禁の有無に気づけるとのこと。消臭剤を使用していないにもかかわらず、事業所内に尿臭は全く感じなかった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排泄の状態を把握し、マッサージや足湯、乳製品を取り入れるなど個々に応じ取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日おきに入浴をしているが、入浴時には本人の意向をうかがい、入る時間を相談したり、着替えを一緒に選ぶなど楽しんでいただいている。	毎日入りたい人、夜間に入りたい人(自分で入って危険のない人)の希望に添っている。入浴に前向きでない人には仲の良い利用者さん同士で入っていただいたり、職員と一緒に入ったりする等して楽しく入浴していただけるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々体調に合わせて、休息していただいている。寝具や空調を整え、気持ちよく休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が薬庫で保管し、薬の目的などの理解に努めている。服薬については必ず見守り、確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな物事、生活歴などを事前に把握し、ケアプランに取り入れている。一人ひとりが役割意識を持ったり、気分転換できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者様の体調、希望に沿って、喫茶店、ドライブ、外食等、外出の機会を作って、本人の希望に応えるよう努めている。利用者様にとって思い入れのある場所を把握し、出来るだけ出掛けられるよう支援している。	行きつけの喫茶店、美容院の他、お寺にお経をあげに出かけられる人もいる。外出に際して、化粧やアクセサリーの着用、着替えの要望等もあるので、それらの要望に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分での管理が難しい方には、財布を金庫でお預かりし、支払いが行える方には買物時財布をお渡しし支払いまでしていただくなど、一人ひとりの希望や力に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をされたい方には事務所の電話を使っただけではない。手紙を出す支援もしている。家族の状況や本人との関係性も考慮しながら支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや玄関に季節の花を飾り季節感を取り入れている。音楽を流す時間とTVをみる時間など利用者様の様子をみながら調整している。光の加減や室温などにも気を配っている。	廊下は車椅子のすれ違いができる広さがある。また、両端と中央にトイレがあり、トイレには「便所」または「公衆便所」と大きく表示され、利用者にわかりやすい。ベランダが広く、利用者が洗濯物を干したり取り入れたり作業がしやすい。リビングには畳の間があり、掘りごたつが設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2階のリビングなど気の合った同士でお茶を飲んでいただける空間がある。廊下に椅子やソファを置き自由に使ってもらえるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には鏡台など、使い慣れた物を持ってきていただいている。居室に写真を飾るなどし、居心地がよくなるように工夫している。	居室は全て南側に配置されている。畳やフローリング等があり、利用者の好みや身体状況にあつた対応ができています。また利用者の写真を取り入れて作成されたカレンダーや誕生祝いが飾られ、自分の部屋だという意識を持てるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れるようにトイレや居室には名前を付け、場所が分かるようにしている。できることはやっていただき、困っている方には手助けをさせていただき、安全に不安なく生活が送れるように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172800290		
法人名	特定非営利活動法人 すずらの木		
事業所名	NPOグループホーム すずらの木(2階)		
所在地	岐阜県下呂市萩原町羽根437-1		
自己評価作成日	平成28年9月23日	評価結果市町村受理日	平成28年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JievosyoCd=2172800290-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	平成28年10月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	パーソンセンタードケアの考え方を柱とし、職員全体で勉強会をし、理念を共有し実践に結び付けるよう努めている。職員の目に入る場所に理念を掲示している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや行事(運動会、ひな祭り)に参加したり、事業所開催のイベントへの参加をしていただいている。地域の皆様からも野菜など差し入れをいただくこともある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に声をかけ、ホームの行事に参加していただき、認知症への理解に繋げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は行っていないため、定期的開催したい。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険制度やグループホーム制度上の疑問点や課題について、助言やご指導をいただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会で身体拘束について学び、拘束をしないケアを行っている。夜間の玄関の施錠は行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で身体的、精神的虐待について学んでいる。入浴時、トイレ介助時などに、身体に異常はないか注意して見ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者様が2名みえるため、もっと勉強したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族に安心、納得して利用を開始していただけるよう丁寧な関わりに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様との食事会を設けたり、面会時に声を掛けたりして、意見、要望等を出していただけるよう努めている。苦情受付のポスターも掲示している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会やカンファレンスの時に意見・提案を自由に言える機会を設け、その都度検討している。年に一度は管理者との面談を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの状況の把握に努め、事情等考慮しながら就業環境の整備をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の勉強会(パーソンセンタードケア、ICF)を開催し、勉強する機会を作っている。研修の情報を積極的に提供し、日程の確保なども行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域連携褥瘡ケア研究会の主催する出張褥瘡講座に来ていただき、勉強会に参加させていただいた。こうした機会をもっと増やしたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネからの情報提供をいただき、事前調査にも行っている。事前に顔を合わせることで、少しでも安心感を持って入居していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査や入所時には、ご家族の思いをお聞きしている。誠意を持って接し、利用を重ねながら家族との距離感を縮めていけるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族様のお話を傾聴し、「その時」の利用者様の状況に合わせて、他のサービス利用も含めた話し込みを行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側、される側ではなく、共同で事を成し遂げる喜びを作るように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に最近のご様子を報告させていただいたり、月1回のお手紙にて様子をお知らせしながら絆を保っていけるよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から利用している美容院や喫茶店などに職員と一緒に出掛けている。職員もご家族などから情報を集め、関係が途切れないよう促しを行っている。面会も自由に来ていただいている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を把握し、コミュニケーションがとれる工夫をしたり、孤立や対立がないよう絶えず気を付け、声掛けや見守りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、必要に応じて相談など受け付けている。屋外でお目にかかった際には、近況をお伺いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向、これまでの生活を確認し、日々の関わりの中から意向の把握に努め、思いに沿った支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネジャー、ご家族様からの情報提供、ご本人との会話などから把握し、ケアに生かせるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、夜勤記録、職員間の申し送りにて把握に努め、その状況に合ったケアができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、ご家族様の意見を踏まえた上でケアプランを作り、カンファレンスにて職員全体で確認できるようにし、その中で意見交換し、現状に即したケアプランとなるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護経過記録、業務申し送りノートを通じ、職員全体で情報を共有し、介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の付添や個人的な外出の送迎をするなど、できるだけ柔軟な支援を行えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や近隣の保育園や学校との交流を大事にしている。お茶会や歌のボランティアなどのご協力を得て、暮らしを豊かに楽しむことができるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族様の納得が得られたかかりつけ医に状況を把握していただいております、急変時にも対応していただいております。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気付いたことを看護師に細かく伝えると共に、医学的アドバイスをいただいております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを細やかに記入し、入院によるご本人のダメージの軽減に繋げている。退院時も情報をいただき、スムーズにこれまでの生活に戻れるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じて早めの段階でご家族様とかかりつけ医とホームで面談を行い、書類を交わし、同意を得ている。職員全体で方針を共有し取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDや心肺蘇生の講習会などを行っている。応急手当などの訓練も行えるとよい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2回消防署指導で行っている。緊急連絡網、発電機の用意、食料などの備蓄もしている。夜間を想定した避難訓練も行ってみたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに対し、その方が傷つくことなく、納得していただける声掛けを心掛けている。トイレ、入浴、更衣の際には羞恥心への配慮を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一方的なケアにより、寝る時間、起きる時間、トイレに行く時間などパターン化してしまわないよう本人の意見も聞き決めるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のその日の体調、気分を考慮し、その方のペースでの生活を心がけている。利用者様とゆっくり関わられる時間を作るためにも職員全体のチームワークの向上を目指したい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝は着たい服をできるだけ選んでいただく。洗顔後、入浴後は化粧水、乳液をつける、紅をさすなどおしゃれを楽しんでもらうよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を見ていただき、献立を一緒に考えたり、一人ひとりの力を見極め、自信を持って楽しくできる仕事をお願いしている。職員も一緒に食事をし、片付けも一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、好みなどを把握し、必要に応じて刻んだり、ミキサーにかけたりして提供している。1日の水分量を確認し、不足しがちな方には、その方が好まれる飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシ、スポンジブラシ、ガーゼなどを使い、利用者様それぞれの状態に合わせて毎食後支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンをつかみ、トイレ誘導を行っている。介助の際も一人ひとりのできる部分を大切にしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表にて排便の状況をチェックし、水分量に気を付けたり、乳製品を提供したりなど、自然排便へとつながるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日おきに入浴日が設定してあるが、本人の希望があれば昼夜を問わずいつでも入浴できるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の状態や本人の希望により場面に応じて休息していただいている。室内お温度調整、清潔な寝具、静かな環境など気持ちよく眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が薬庫で保管し、薬の目的などの理解に努めている。服薬については必ず見守り、確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の得意なことなどやっただけよう無理のないように促している。役割意識を持っていただき、生活が張りのあるものとなるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って喫茶店や買い物などに出掛けたり、散歩や野草摘みなど季節に合わせて外出している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分での管理が難しい方は金庫にてお預かりし、買い物や外出の際にお渡しし、自分で支払うことで楽しさや満足感に繋げている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の申し出により、自由に電話の使用ができる。手紙もいつでも出せるように支援している。家族の思いも配慮し対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調や換気、室内の明るさ、テレビのボリュームなどに気を付けている。玄関やリビングには季節の花を利用者様に飾っていただいたり居心地のよい空間となるよう心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	屋外や廊下に椅子やソファが置かれ、自由に使用していただけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込んでいただいて、居心地よく過ごしていただけるようにしている。写真を飾るなど、本人にとって居心地がよく過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	公衆便所の張り紙、お風呂場ののれん、リビング入口の提灯などで場所がわかりやすいようにしている。		